

① 学習指導案

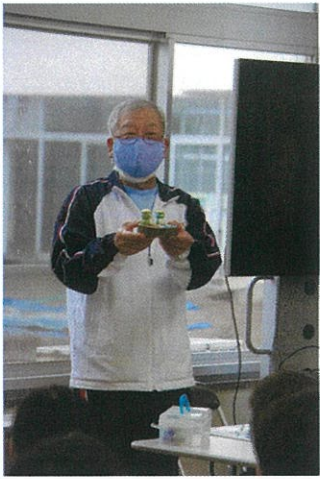



プログラム	No.11 「 地域景観プランナーになろう 」
単元名 (全36時間)	大湊かっぱプロジェクト
学習のねらい	「かっぱ」を通したよりよいまちづくりの在り方を考え、まちに必要なものを創造し、発信する。
学習内容	1 まちづくりに関わる方から、まちづくりへの思いや願いを聞く。 2 「かっぱ」を通したまちづくりの構想を考える。 3 構想を基に創作活動に取り組む。 4 完成した作品を展示する。
参考資料	『わたしたちの大湊』（社会科副読本）
準備品	地域の地図、創作活動に必要な材料、道具
実施場所等	教室、大湊区内

学習の流れ

月	□ 活 動 内 容 (時数)	○授業協力者	評価規準
5	□かっぱ祭りの歴史とまちの人の思いを探る(8) ・かっぱ祭りへの思いを聞く。 ・まちの人の声を聞く。 (インタビューorアンケート調査)	○学校運営協議会委員 ○かっぱ祭り実行委員会 ○まちづくり大湊 ○大湊区民	自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的に人、もの、ことに関わろうとしている。
6	□かっぱを通したまちづくりの思案、構想、創作(12) ・かっぱの顔出し看板づくり		(主体的に学習に取り組む態度)
7	・かっぱのオリジナル劇づくり ・かっぱ像づくり ・かっぱオリジナルテーマ曲づくり ・かっぱグッズづくり など		かっぱを通したまちづくりについて、収集した情報を基に、理由や根拠のある具体的な活動を決定している。 (思・判・表)
8	□かっぱを通したまちづくりの		
9	創作(10) ・かっぱの顔出し看板づくり ・かっぱのオリジナル劇づくり ・かっぱ像づくり ・かっぱオリジナルテーマ曲づくり ・かっぱグッズづくり など		目的に応じて、表現方法を工夫しながら制作している。 (思・判・表)
10	□完成作品の展示、PR(6) ・区内の公共施設等に展示 ・区の広報誌等でPR	○かっぱ祭り実行委員会 ○まちづくり大湊 ○大湊区総合事務所	

② 事業実施報告書詳細

学校名 上越市立大潟町小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
4	校内	<p>○かっぱ祭りの歴史やまちづくりの課題の把握。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり大潟」会長の話を聞く。 ・まちの人へのインタビュー活動を行う。 		<p>「大潟町にはかっぱに関するものが少ない」という声や、「地域を盛り上げる何かよいアイデアはないか」という切実な声を聞き、何とかしたいという思いをもつ。</p>
24	校内	<p>○かっぱを通じたまちづくりの創造。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔出し看板制作。 ・かっぱの置物制作。 ・かっぱ劇の創作。 など 		<p>まちに飾ってもらったり、人に見てもらったりすることから、よりよい作品、よりよい劇にしたいという思いで作業に取り組む。</p>
2	県立大潟水と森公園	<p>○県立大潟水と森公園20周年記念フェスティバル参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔出し看板の設置。 ・かっぱ劇の披露。 		<p>参会者に制作物で楽しんでもらいかっぱのPRができたという思いをもつとともに、もっと市内外にPRしたいという思いをもつ。</p>
6	校内 設置場所	<p>○顔出し看板等の展示先を考える話し合いPR文書作成、依頼。</p> <p>○作品の展示。</p>		<p>自分たちで制作したものが町の施設に置かれることになり、達成感を味わう。</p> <p>まちの景観づくりに一役担い、満足な様子だった。</p>

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none">・「まちづくり大潟」の方からまちづくりへの思いや課題を聞く機会を設けたり、地域の方へのインタビューから要望を聞いたりすることで、子供の活動の原動力となるようにしたこと。・佐渡島への修学旅行を好機と捉え、佐渡のまちづくりに学び、大潟町の景観まちづくりのヒントを得る機会としたこと。・子供の思いや願いを地域の企業等に伝え、制作協力を要請したこと。（どうしても子供の力では難しいことも、おかげでクリアできた。）
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none">・ゼロからの創作活動は思いのほか時間がかかった。10月10日の県立大潟水と森公園20周年記念フェスティバルでの展示、発表に向けて、準備や練習のための時間の捻出に苦労した。
<p>(3) 児童の反応</p> <p>子供はやりがいを感じ、主体的に取り組むだけでなく、創造性や協働性を発揮しながらつくり上げていった。特に、顔出し看板制作では、どのような絵にすべきか設計図を描き、チームで話し合い、分担して彩色するなど、よりよいものをつくろうとする姿が見られた。</p> <p>また、劇では、会場の景観に合う大道具や衣装の制作に熱心に取り組んでいた。</p> <p>子供は、「早く総合がしたい」「次の総合の時間には〇〇をしたい」などと、総合の時間を楽しみに学校に登校してくるようになった。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・「景観」や「まちづくり」に対するアンテナが高くなり、大潟町だけでなく、他地域の景観やまちづくりに関するニュースや新聞記事に目が留まるようになった。また、それら子供と共に作る総合的な学習の時間にいかせないかと考えるようになった。・6学年の活動を見て、「学校の屋上にある水道タンクに、かっぱの絵を描いたらまちのシンボルになるし、壮観だよ」「全国にはかっぱで有名なまちがたくさんあるよ」などと、6学年担任以外の職員からアイデアやヒントをいただいた。
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>活動の自由度の高い総合的な学習の時間では、教師の思いや願い、身に付けさせたい資質・能力を意識した展開が大切である。一方で、活動の意義を理解し、目的をもった子供の力は計り知れない。教師の思いや願いを押し付けることで、子供の意欲が下がり、力が発揮されないことだけは避けたい。</p> <p>今回の景観まちづくり学習は、やや教師の思い描いた方向に活動を進めた部分があることは否めない。子供の思考に寄り添い、より子供が主体となって活動が進んでいくような総合的な学習の時間を目指していく。</p>